

— カタカムナ 48 声音の思念(言霊)の発見について —

この「カタカムナ 48 声音の思念(言霊)」の発見に至る経緯を簡単にお話したいと思います。

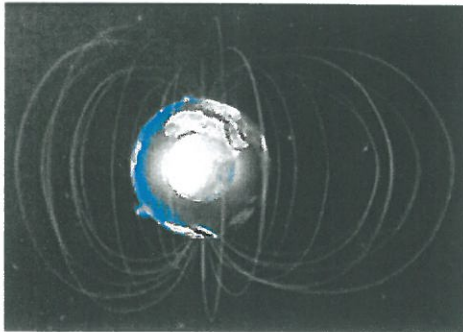
私は、主婦業の傍ら、英語の翻訳などをやっていました。カタカムナを知った時から、「カタカムナ ウタヒ」には深い意味があると直感し、「相似象会誌」などを読みながら、独自に研究を進めていました。「古代語」を「現代語」に翻訳する作業は、「外国語」を「日本語」に翻訳する作業と、ある意味、共通したものがああり、培ってきた経験が随分役に立ったと思います。まずは正確な 48 声音の思念を見つけ出さなければ解説は不可能です。

そこで、よく使う日本語の言葉を、48 声音それぞれの音の項目に分類し、その音が持つ共通概念とは何か？…と昼夜考え、探し求めました。

今までにも48声音の「思念」に関する本が幾つか出版されていましたが、一声音にたくさんの意味を含んでおり、結局、それが何を意味するのか、私の理解力では明確にならなかったのです。まずは「コア」ともいべき「思念」を一言で表現するとどうなるのか？にこだわって考えました。そうすると次々と素晴らしいインスピレーションを頂くことが出来、2か月ほどで、48声音の思念を発見する事ができました。次に、それらの思念が正しいかどうか、様々な「言葉」に一声音ずつの思念を当てはめ、意味的な矛盾が生じないかを検証しました。矛盾を発見した場合は、その思念が誤りである可能性があるため、もう一度考え直します。そのようにして、ほとんど矛盾がなくなった「思念」を、この「カタカムナ 48 声音の思念(言霊)表」としてまとめた訳です。

実際には、48 声音が表す「言霊」は、一音一音が果てしなく深い意味を秘めており、「思念表」に書かれている「一言」では、到底、言い表せるものではありません。又、言霊とは「宇宙の法則」なので、「日本語」だけではなく、すべての言語に共通したモノであるはずで

48 声音の響き(振動)が発する本当の意味を理解する事は、即、「宇宙・生命のシステム」の全体像を深く理解する事に通じるのではないのでしょうか。この思念表が、一つの手がかりとなり、遥か彼方に始まった私たちのルーツが解き明かされる日が来ることを願っています。又、聖書にも、



(地球と磁場)

- 初めに言^{コバ}があった。言^{コバ}は神であった。この言^{コバ}は、初めに神と共にあった。万物は言^{コバ}によって成った。

(ヨハネの福音書より)

- 「世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた。(創世記より)

という記述があります。この「初めの言^{コバ}」とは、このカタカムナ48音の思念ではなかったか…と私は思います。

太古の昔、人類は、この「創世記」の言葉のように、共通の思念によって意思の疎通ができていたのかも知れません。今再び、この思念表が、世界を一つに結ぶきっかけとなれば…と祈りつつ、皆様にお届けします。

著作者： 吉野 信子